

## 「誰かのために・・・心に響く言葉」

城山開発(株)城山ゴルフ倶楽部 取締役支配人 やまさき 山崎 よしひろ 吉博



野球に打ち込んだ高校時代の山崎さん

住 所: 加古川市志方町野尻808-1  
T E L: 079-452-4441  
営業内容: ゴルフ場事業、緑化関連事業

人生のうち、たくさんの方々と知り合う中で様々な出来事があり、感動的な経験をさせていただいています。

小学校5年生から本格的に野球をはじめ、社会人野球の「神戸製鋼所硬式野球団」を引退するまでの14年間は「野球生活」でした。中学3年生最後の大会にエースで挑んだ区大会1回戦、最終回まで2-10でリードするものの四球を連発し、ストライクが取れない状況から弱気になり、監督の方をチラチラ見ていたのですが監督は全く動ぜず、結果逆転負けを喫してしまいました。試合後監督は「みんなには悪いけど野球は勝っても負けても投手で決まるとい

事」を山崎に経験させたかった。頑張つて敗者復活戦を勝ち上がった」と言ってくれました。この言葉は後の投手としての野球人生に大きく影響を与えてくれた言葉でした。高校進学時には県内外の10数校からお誘いを受けましたが、文武両道である福岡大学附属大濠高校に進路を決めました。

2年時の春、夏は控え投手でしたが甲子園に出場しました。新チームではエースとなりましたが秋は骨折して投げられず、春季県大会は甲子園に関係のないのに優勝し、最後の夏は優勝候補に挙げられるも「腎盂炎」を発症し16強で無残に散りました。ただ不甲斐ない投手であったにも関わらず、一度も試合に出た事がない同級生に「山ちゃん、いい夢見させてもらったよ。これからプロ目指して頑張つてな」と声を掛けられました。この時、自分だったら一度も試合に出られないまま果たして高校野球を続けられたらどうか？高校野球ではケガや病気で期待に応えられなかったけど、きつとプロになる。

と思いを馳せました。次の進路は熱心に誘っていた神戸製鋼所硬式野球団に入団する事になりました。1年目から登板する機会に恵まれましたが6月の都市対抗野球兵庫予選前にまた「腎盂炎」を発症し離脱、2年目の秋から調子が上がり出すも翌春にはボールが顎に当たり骨折、4年目で「抑え」に抜擢され、予選を勝ち抜き「都市対抗野球大会」に出場し、初の全国デビューで東京ドームのマウンドに立ちましたが、帰神後間もなく肘を手術し、

2年後に短い野球人生を終えました。引退してやっと「普通の社会人」になり、29歳で神鋼労組の専従役員となり16年間お世話になりました。専従役員中思い出深いのは2011年3月11日に発生した「東日本大震災」です。当時は「基幹労連兵庫本部」の事務局長で、連合よりボランティア募集がありました。激しい余震も続いている中、各都道府県事務局長会議では「危険そうな場所にボランティアを派遣して大丈夫か？何かあった時の補償は？」等の質問が飛び交い紛糾しましたが、基幹労連本部のある大御所が「安全なところでごちゃごちゃ言っても分らない。現地では分からない事がある。ボランティアなんだから強制じゃない、行きたい奴が行つたらいいんだ」との言葉に何故か掻き立てられ連合ボランティア第一陣として3月末に釜石市に出発し、現地を自分の目で見て体験しながら仲間と詳細な情報を送る事が出来ました。同年7月にも釜石市にボランティアに行かせていただき地元の方々の復興のお手伝いをさせていただいた事は貴重な経験になりました。

今後も人との出会いを大切に、感謝の日々を過ごしていきたいと思っています。



東日本大震災時のボランティア (瓦礫の上に車が・・・)